

奈良県斑鳩町寺山北古墳群測量調査報告

豊島直博・松島隆介・小林友佳・高井秀樹

1. 調査の経緯

奈良大学文学部文化財学科は斑鳩町教育委員会と協力し、斑鳩地域における古墳の調査研究に取り組んでいる。これまで斑鳩大塚古墳、寺山古墳群、甲塚古墳、亀塚古墳、戸垣山古墳、梵天山古墳群、神代古墳の測量調査、斑鳩大塚古墳、甲塚古墳の発掘調査を行い、斑鳩における首長系譜の解明に努めてきた。2021年度は斑鳩町の北部、法隆寺の北西約0.8kmに位置する寺山北古墳群の測量調査を行ったので、その成果を報告する。

寺山北古墳群は斑鳩町法隆寺字寺山に所在する。斑鳩町遺跡地図では3基の古墳群で、1基が円墳、2基は古墳か否か不明とされている（斑鳩町教育委員会1995）。これまでに調査されたことはない。

なお、本報告は教員の豊島直博、学生の松島隆介、小林友佳、高井秀樹が分担で執筆した。担当部分は文末に記す。（豊島直博）

2. 周辺古墳（図1）

報告の前に、周辺の古墳を概観しておきたい。

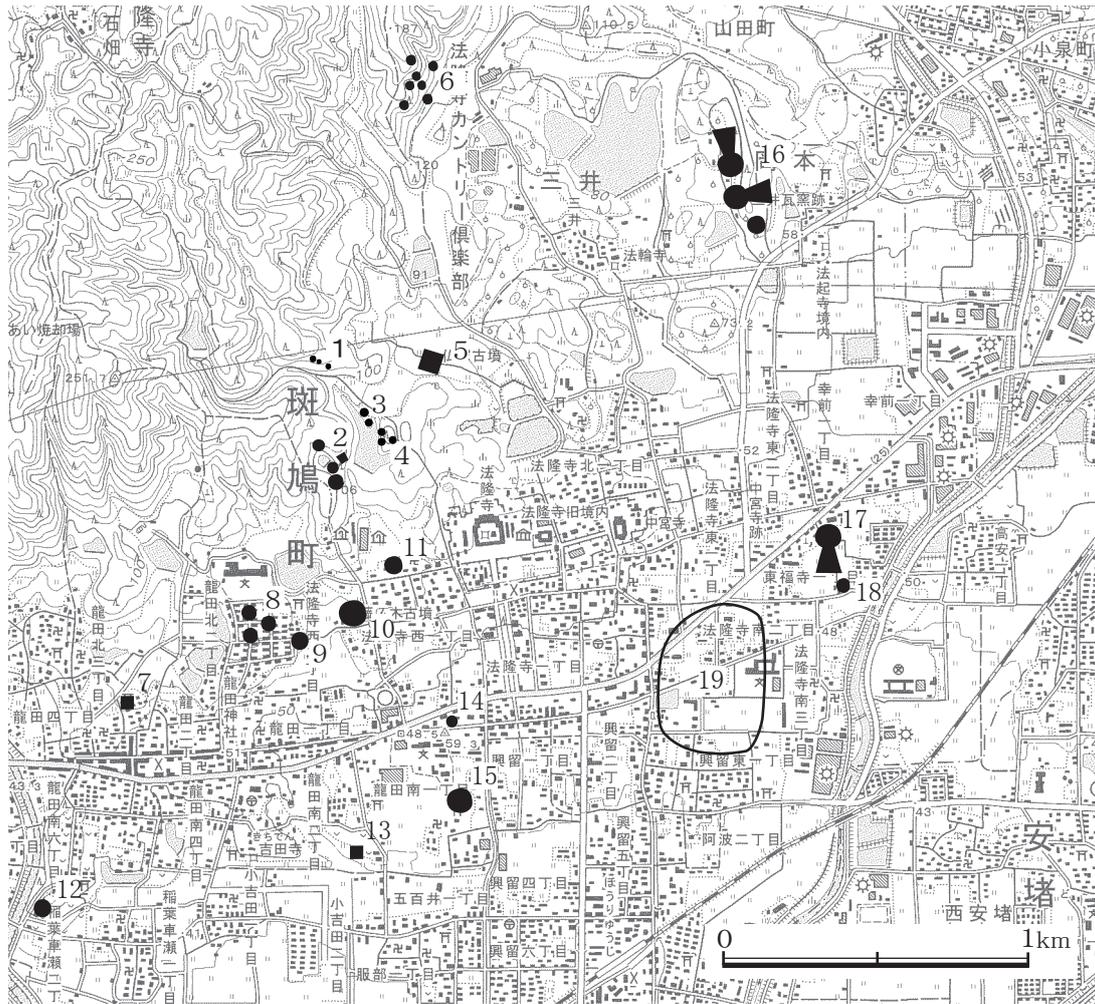
寺山北古墳群の東約400mに仏塚古墳（5）がある。一辺約23mの方墳で、両袖式の横穴式石室をもつ。石室内から須恵器や亀甲形陶棺片が出土しており、築造時期は後期末頃である（河上・関川1977）。

寺山北古墳群の南東には慶華池古墳群（3）がある。池の水際に2基の古墳があり、南東側の1号墳は直径16mの円墳で、北東に開口する横穴式石室の一部が残存する（大西2000）。

慶華池古墳群の南東尾根上には梵天山古墳群（4）がある。2018年に奈良大学が測量調査を行い、12～15mの円墳3基で構成される初期群集墳であることが判明した（豊島2019）。

寺山北古墳群の南方尾根上には寺山古墳群（2）がある。2014～2015年に奈良大学が測量調査を行った。1号墳は直径23mの円墳か全長30mの前方後円墳、2号墳は20×15mの円墳、3号墳は19×13mの方墳、4号墳は16×14mの円墳と考えられる初期群集墳である（河村・高左右・豊島2015、間所・宮畑・豊島2016）。

以上のように、法隆寺の北方では、まず丘陵上に寺山古墳群や梵天山古墳群などの初期群集墳が築造される。つぎに、平地部に慶華池古墳群や仏塚古墳など、横穴式石室をもつ後期古墳が築造されることがわかる。（豊島）



- 1 寺山北古墳群 2 寺山古墳群 3 慶華池古墳群 4 梵天山古墳群 5 仏塚古墳 6 三井古墳群
- 7 神代古墳 8 竜田御坊山古墳群 9 甲塚古墳 10 藤ノ木古墳 11 春日古墳 12 稲葉車瀬古墳群
- 13 戸垣山古墳 15 斑鳩大塚古墳 14 亀塚古墳 16 瓦塚古墳群 17 駒塚古墳 18 調子丸古墳
- 19 酒ノ免遺跡

図1 周辺の古墳時代遺跡分布図 1 : 25,000

3. 調査の経過

今回の測量調査は2021年8月16日から8月27日まで、雨天を除く8日間で行った。基準点測量は梵天山古墳群の測量調査の際、慶華池の東側に設置した仮設点と、そこから仏塚古墳までの中間に設置した仮設点を使用し、古墳群付近に新たに設置した杭まで開放トラバースで移動した。さらに各古墳の周辺に杭を設置し、平板測量を行った。調査参加者は下記のとおりである。

豊島直博（文学部教員）、松島隆介、丸山 亮（以上、大学院2回生）、小林友佳（大学院1回生）、上西恭平、金田将徳（以上、文学部4回生）、飯田明日香、江端樹大、郷田美宇、高井秀樹（以上、文学部3回生）、上野喜則、木村和生、武田鮎奈、寺本 啓、松田青空、水川慶紀、平田一花、森川寧々（以上、文学部2回生）、池本優衣（文学部1回生）。

調査に当たっては、土地所有者である法隆寺、斑鳩町教育委員会平田政彦氏と荒木浩司氏の全面的な協力を賜った。記して感謝申し上げる。

（豊島）



1. 寺山北古墳群遠景（南から、矢印が古墳群）



2. 調査の様子（1号墳）



3. 調査の様子（2号墳）



4. 調査の様子（3号墳）

図2 古墳群の立地と調査の様子

4. 調査の成果

寺山北古墳群は矢田丘陵の南端付近を東西に延びる狭い尾根上に立地する。古墳は標高約110～130mに位置し、平野部からの比高差は約30～50mである。最も低い尾根の東端にある古墳を1号墳、西に向かって2号墳、3号墳と呼称し、測量を行った。

(1) 1号墳（図3）

1号墳は南東方向に延びる丘陵の尾根上に位置している。古墳の東側は山道に至る急斜面となっている。標高110.2～110.4mの等高線は楕円形を描き、円墳の可能性が高い。以下では北から時計回りに調査成果を説明する。

墳丘北側は東西方向の切通しによって削平されている。北東側では標高109.2m以上の等高線が円弧を描き、墳丘が残存する可能性が高い。標高109.0m付近に平坦面があり、この付近が墳端と考えられる。

墳丘東側から南側にかけては等高線の間隔が密で、急斜面をなす。樹木も密生しており、墳丘が改変されていると考えられる。墳端も明瞭ではない。墳丘南西側は、南東方向に下る谷状の地形をなしており、墳丘盛土が流出していると考えられる。

墳丘西側では、墳頂部から緩やかな斜面をなす。標高110.0m付近に平坦面があり、この付近が墳端と考

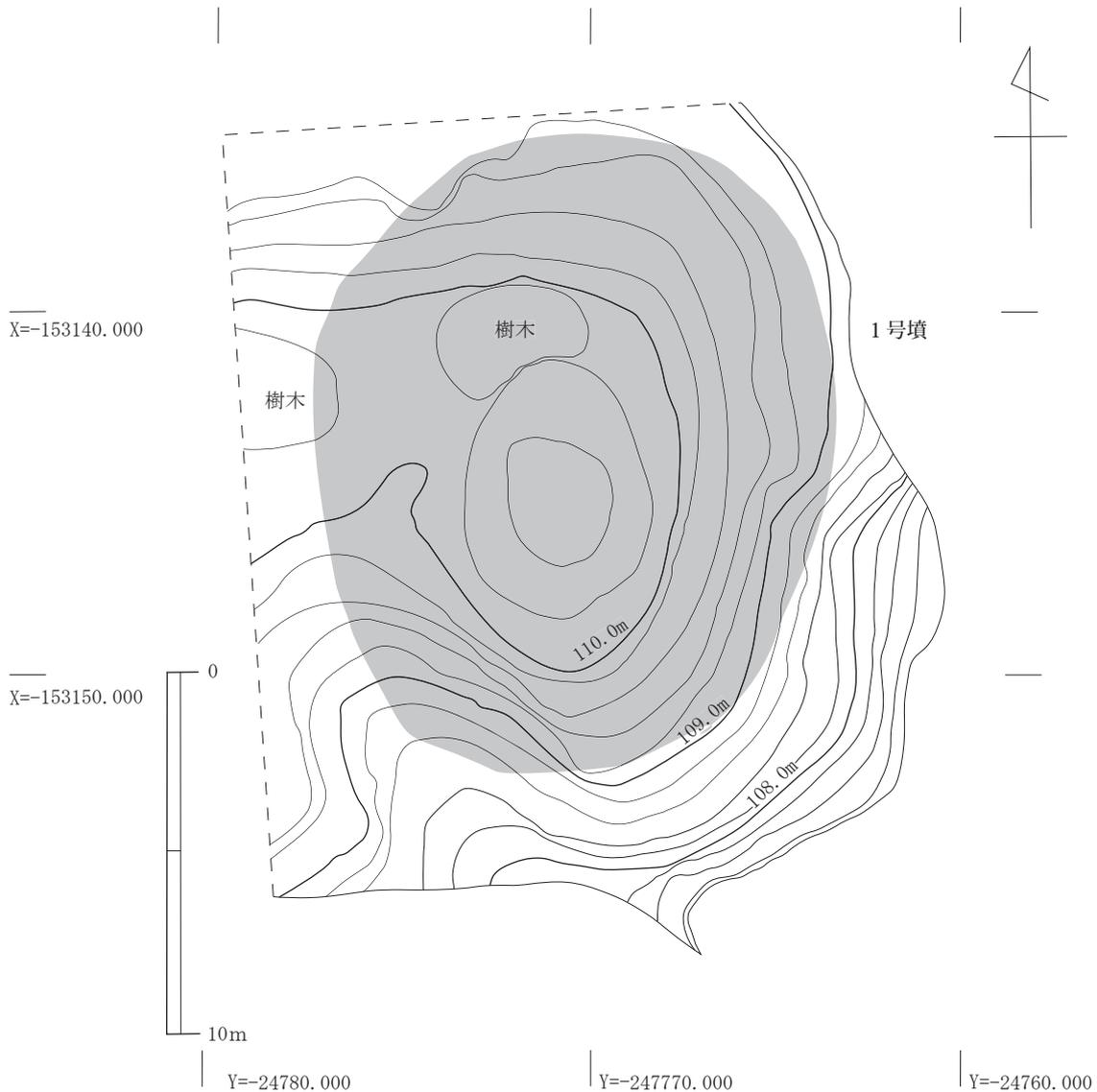


図3 1号墳墳丘測量図 1:200

えられる。

以上から、1号墳は南北18m、東西14m、高さ1.4m程度の円墳と推定される。墳頂部に盗掘坑などは認められない。墳丘が低く、石室石材なども確認できないことから、木棺直葬の埋葬施設をもつと推測される。採集遺物はない。(小林友佳)

(2) 2号墳 (図4)

2号墳は1号墳の西方約100mの尾根上に位置する。墳丘北側は崩落し、山道に至る急斜面となっている。墳丘東側では、標高127.6m付近に狭い平坦面があり、この付近が墳端と考えられる。

墳丘南側では、標高127.4～128.0mの等高線がほぼ等間隔に円弧を描き、円墳の形態が保たれていると考えられる。墳丘西側では、標高128.2m付近に平坦面が存在し、この付近が墳端と考えられる。

以上から、2号墳は直径約8m、高さ約1mの円墳と考えられるが、小規模で墳丘も低く、古墳ではない可能性もある。表採遺物はない。(高井秀樹)

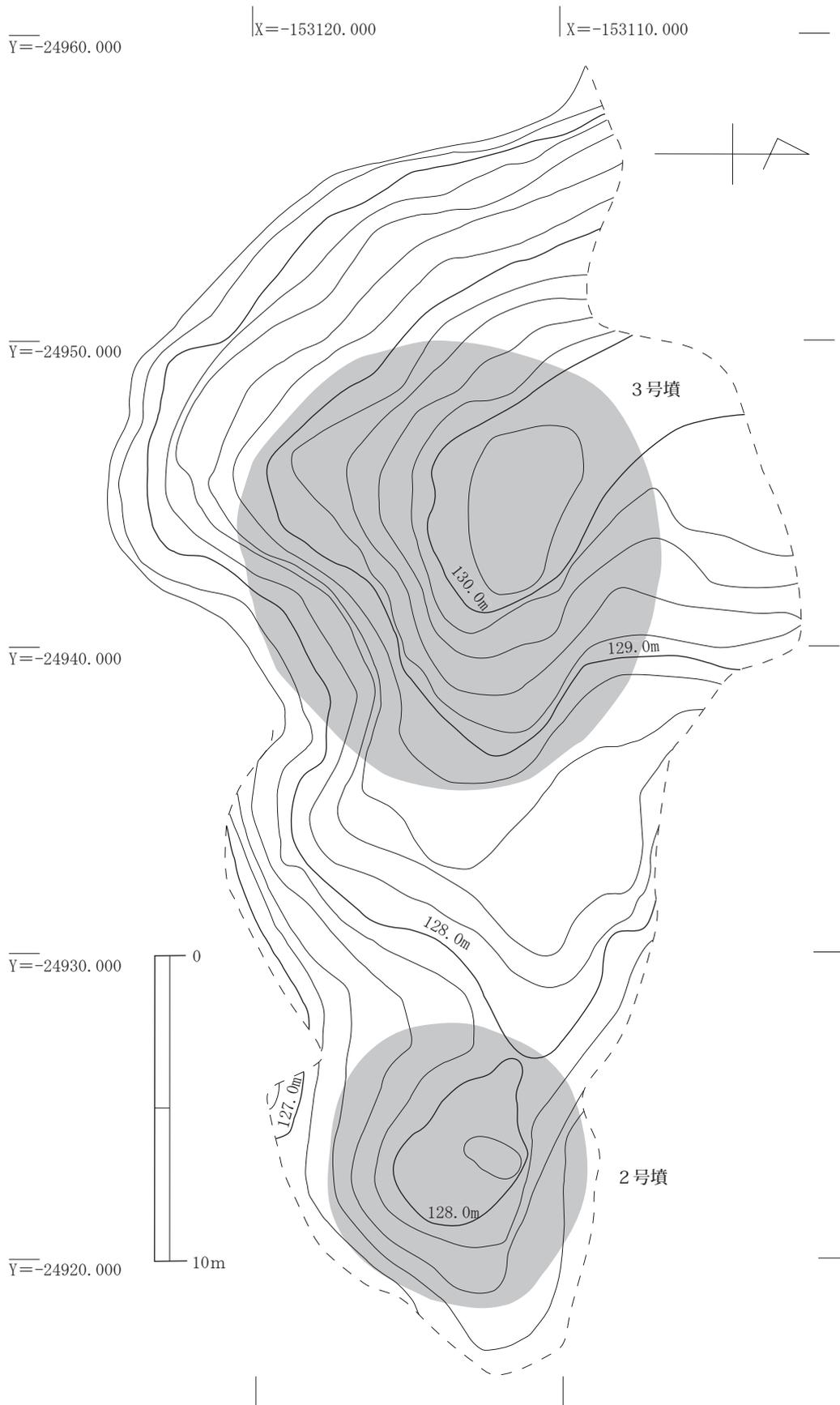


图4 寺山北2·3号墳丘測量図 1:200

(3) 3号墳 (図4)

3号墳は2号墳の西方約10mにあり、寺山北古墳群では最高所に位置する。他の墳丘と同様、後世の削平や土砂の流出が大きい、不整形の高まりが確認できる。

墳丘の北西には送電線の鉄塔がある。墳丘北側は作図した範囲外で急斜面となり、東西方向の山道に至る。東の鞍部を隔てて2号墳に続く。

墳丘北側では標高129.6～129.8mの等高線が谷状のくびれを描いており、付近が墳端と考えられる。墳丘東側では標高128.8m付近が平坦面となっており、この付近が墳端と考えられる。

墳丘南東側では、標高129.0m付近まで谷状の地形となっており、墳丘が流出していると考えられる。墳丘南西側では、等高線が直線的で墳丘の形状がわかりづらいが、標高128.8m付近にわずかな平坦面があり、その付近が墳端と考えられる。

以上から、3号墳は長径15m、短径約13mの円墳であると推測される。墳頂部に盗掘孔などは見られない。墳丘が低く、石材等は見られないことから、埋葬施設は木棺直葬と考えられる。表採遺物はない。

(松島隆介)

5. まとめ

最後に、今回の調査成果をまとめたい。

寺山北古墳群は矢田丘陵の南部、法隆寺の北方約0.8kmに位置する古墳群である。尾根上に3基の古墳が分布する。最も東にある1号墳は約18×14mの円墳である。西方約100mにある2号墳は直径約8mの円墳である。さらに西隣の3号墳は15×13mの円墳である。いずれも木棺直葬の埋葬施設をもつ初期群集墳と考えられる。

これまでの測量調査によって、法隆寺の北方には寺山古墳群、梵天山古墳群などの初期群集墳が築造されることが明らかにされている。寺山北古墳群もその1つに位置づけられる。ただし、いずれも墳丘が低く、古墳であるという確証を得るには至らない。今後は物理探査や発掘調査が必要である。(豊島)

参考文献

- 斑鳩町教育委員会 1995『斑鳩町遺跡地図』斑鳩町教育委員会
大西貴夫 2000「奈良県斑鳩町慶華池古墳群調査報告書」『奈良県遺跡調査概報』1999年度 奈良県教育委員会
河上邦彦・関川尚功 1977『斑鳩・仏塚古墳』斑鳩町教育委員会
河村万里・高左右裕・豊島直博 2015「奈良県斑鳩町寺山古墳群測量調査報告」『文化財学報』第33集 奈良大学文学部文化財学科
豊島直博 2019「奈良県斑鳩町梵天山古墳群測量調査報告」『文化財学報』第37集 奈良大学文学部文化財学科
間所克仁・宮畑勇希・豊島直博 2016「奈良県斑鳩町寺山3・4号墳測量調査報告」『文化財学報』第34集 奈良大学文学部文化財学科

挿図出典

図1 松島製図 図2 豊島作成 図3 松島製図 図4 松島製図

豊島直博 (奈良大学文学部文化財学科)
松島隆介 (奈良大学大学院文学研究科)
小林友佳 (奈良大学大学院文学研究科)
高井秀樹 (奈良大学文学部文化財学科)